

亥年生まれの小学生に聞きました



『ぼくの初夢』

わたしの初夢、



美国小5年
青木 穂乃華さん

「動物が好きなので、獣医になりたいです。あと、テレビで見たかんしきの仕事もかっこいいと思ったのでやってみたいです。」



美国小5年
大保 真美さん

「陸上選手になりたいです。あとシェフにもなりたいです。おいしい料理をみんなに食べてほしいな。」



美国小5年
野呂 大星くん

「プロ野球選手になりたいです。もっといっぱい練習して野球選手になって活やくしたい。がんばります！」



美国小5年
宮川 真くん

「中華料理店を小樽近辺に開きたい。だれもおいしいと思うような中華料理を作りたいです。」

新たな年を迎え、今年の干支である戌年の小学生全員に「ぼくの初夢・わたしの初夢」を聞いてみました。
将来やってみたい仕事は？自分たちが大人になる10年後、積丹町はこんな町であつたらいいな…。
返ってきた答えは、プロ野球選手や保育士、看護師など、どれも子どもらしい希望と元氣にあふれるものばかりです。
子どもたちが未来に抱く大きな「夢」。それは、積丹町がいつまでも輝き続ける「希望」としてもち続けてほしいものです。



美国小5年
田代 小百合さん

「おもしろくて、人に感動を与えられるまんが家になりたいです。あと、パティシエにもなりたいな。」



美国小5年
鎌田 佳くん

「和食店をやりたい。つけ物やみそ汁が大好きなので、たくさんのお客さんからおいしいと言われるものを作りたいです。」



美国小5年
大保 優真くん

「甲子園で有名になってからプロ野球選手になりたい。小笠原選手のようなガッツあふれるプレーでたくさんの人を魅了してみたいです。」



美国小5年
藤田 真史くん

「バドミントンをやっているの、将来はバドミントンの選手になりたいです。あと、積丹町がもっときれいな町になってほしいです。」



美国小5年
白川 敏裕くん

「将来は、美国海浜ホテルをついで、ホテルをはんじょうさせたいです。まじめな人間になりたいです。」



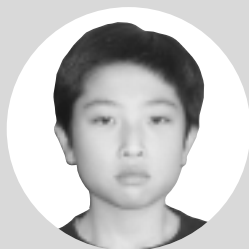
美国小5年
福井 侃くん

「ゲームを作る人になりたいです。大人から子どもまで楽しめるゲームを作ってみたいです。」



美国小5年
茂木 依里華さん

「店のレジや食品などを並べたりする仕事をしたいです。やさしくて、明るい人になりたいです。」



美国小5年
嶋田 春実さん

「車で日本一周をしてみたいです。車が好きだし、東京とか行ったことがないところに行ってみたいです。」



美国小5年
江刺家 結哉くん

「バドミントンに興味があるので、バドミントンの先生になりたいです。たくさんの人に教えて、みんなが楽しくできるようにしたいです。」



美国小5年
亀石 紀々香さん

「釧路の山の中にある料理店をついで、たくさんの人においしい料理を食べてほしいです。家庭では、子どもを産んで毎日楽しく暮らしたいです。」



美国小6年
佐藤 しいなさん

「将来の夢は教師になることです。いつも先生の授業を聞いていると、楽しそうに見えるからです。」



美国小6年
大嶋 諒太くん

「ビデオ店を経営したい。ビデオを貸し出したり、新しいビデオを置くのが楽しそうだからです。」



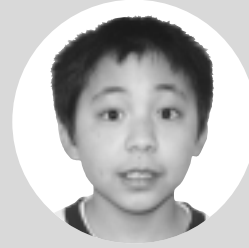
美国小6年
沖村 翼くん

「世界のたくさんの国を旅して、いろいろな人に会ったり、いろいろなものを見たりしたいです。」



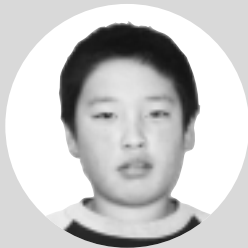
美国小6年
西川 亜里奈さん

「将来は、お年寄りが楽しく生活できるように、お世話をする仕事がしたいです。」



幌武意小6年
富士谷 秀平くん

「将来の夢は、プロ野球選手。大好きな野球をいつまでもやっていたいな。」



入舸小6年
笠井 大樹くん

「漁師になって、19トン船に乗り「タコ島」にイカ漁に行ってお金稼ぎしたい。未来の積丹町は、イカがいっぱいとれて自然がたくさんあればいいな。」



入舸小6年
杉野 由季さん

「未来の積丹町は、自然がたくさんあって明るい町になってほしいです。それにたくさん人が増えて、にぎやかな町になってほしいです。」



日司小5年
佐藤 辰哉くん

「お父さんとおじいちゃんが漁師なので、ぼくも漁師になりたいです。ぼくが漁師になるまで、積丹の海がきれいでいてほしいです。」



日司小5年
吉田 美澤さん

「将来、看護師になりたいです。病院に行ったときに、看護師さんにやさしくされたから、私もやさしい看護師になりたいです。」



野塚小5年
生駒 紗希さん

「小学校の先生になりたいです。今まで勉強を教えてくれた先生と同じ仕事をやって、今度はその時の小学生に教えてあげたいです。」



余別小5年
廣和 美香さん

「将来の夢は保育士になることです。子どもが好きで、いここに小さい子がいるからです。」